

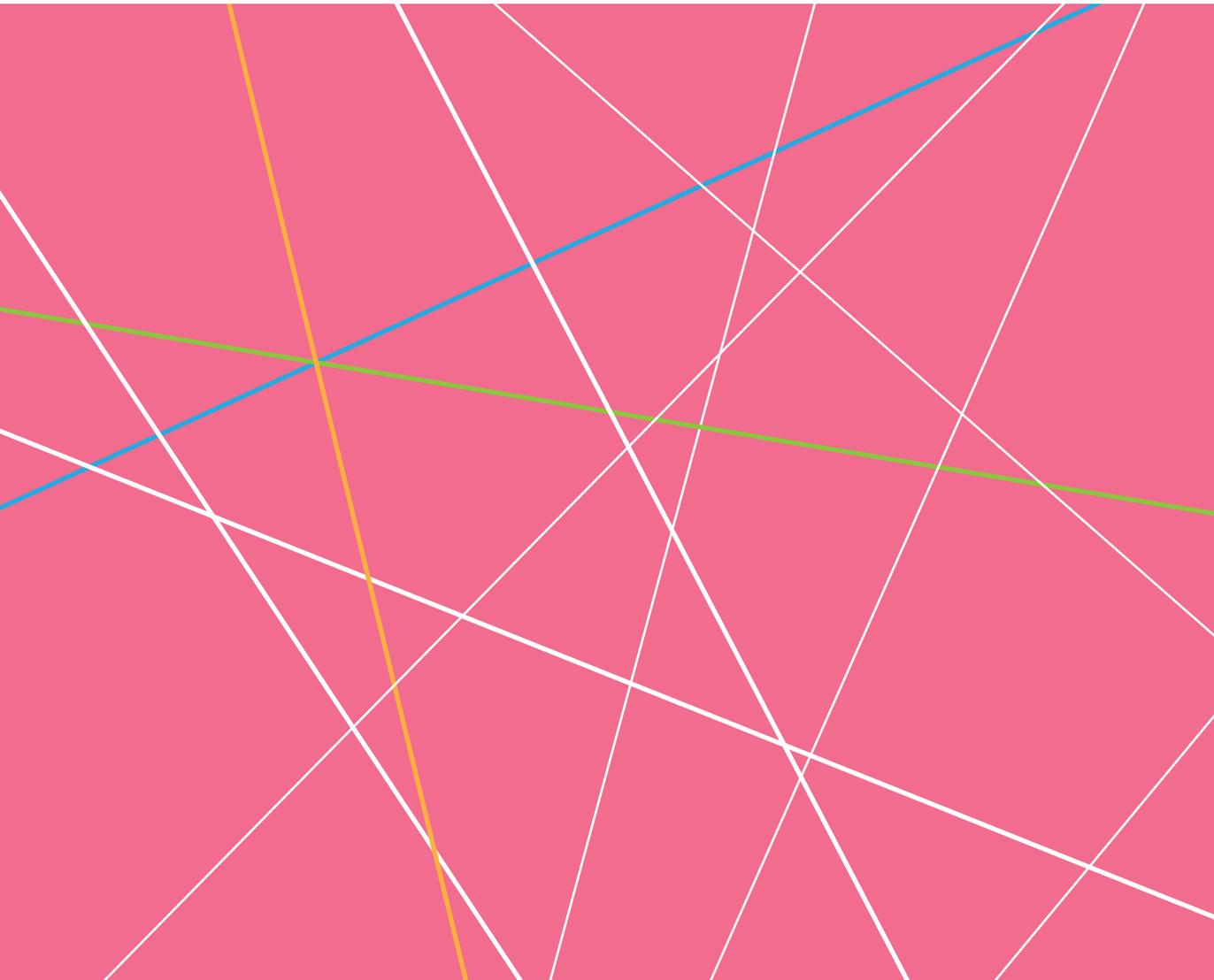
OKINAWA

ARTS

COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集



OKINAWA

ARTS

COUNCIL

2023 > 2024

OKINAWA ARTS COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集

目次

- P.03 ごあいさつ
- P.04 沖縄アーツカウンシルとは？
- P.06 令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について
- P.08 令和5年度採択事業者の活動拠点
- P.09 支援事業のご紹介【団体】
- P.18 支援事業のご紹介【スタートアップ】
- P.24 支援事業のご紹介【個人事業主】
- P.32 令和5年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「オキナワ担い手未来」
- P.34 令和5年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
ウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」
トークイベント「Okinawa Arts Meeting」
- P.35 令和5年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「ぶんかとはじょきんそうだん会」
「第1回 先島文化ミーティング」

○ ごあいさつ

はいさい ぐすーよー ちゅううがなびら

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業事例集「OKINAWA ARTS COUNCIL 2023>2024」の発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。本事業は、文化芸術に関わる県内の団体や個人を支援することにより本県の多様で豊かな文化芸術活動の持続的な発展を図ることを目的に、沖縄県文化振興会が沖縄県からの委託を受けて実施するものであり、これまでに延べ390件の多岐にわたる事業を支援してきました。

今年度においては、教育や福祉、地域の歴史等をテーマとする事業など、文化芸術と他分野との連携や地域の課題解決に向き合うとする事業の応募が多く寄せられ、アドバイザーボード委員による議論を踏まえて21件を採択し、文化芸術の現場経験や専門性を持つプログラムオフィサーの伴走による支援に取り組んで参りました。県民の皆様には、事業を展開するなかでどのような試みや気づきがあったのか等、本事例集を通じて沖縄における多様な文化芸術の萌芽を感じていただければ幸いに存じます。

また、今年度は新たに2つの取り組みを本格的に始動しました。

まず、文化芸術の未来を担う人材育成プログラムである「オキナワ担い手未来」では、専門家による全9回の講座を実施し、受講者の活動の推進力強化やノウハウを学ぶ場としての取り組みをスタートしました。

昨年度より準備を進めてきた「沖縄県文化芸術名鑑」については、県内の魅力的なアーティストやクリエイターの紹介記事、文化団体情報等を掲載したウェブページを公開しました。今後の情報発信にぜひご注目ください。

沖縄県文化振興会としましては、アーティストや文化芸術に携わる方々はもちろん、広く県民の皆様の声を大切に、今後とも様々な側面から文化芸術の振興に尽力して参ります。

結びに、本支援事業の実施にご協力をいただきました関係者の皆様方に、心からの敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



公益財団法人沖縄県文化振興会
理事長 金城 賢

○ 沖縄アーツカウンシルとは？

沖縄の多様な文化芸術活動の持続的発展を図るため、
公募による補助事業や担い手育成プログラムの実施、
相談会の開催など、幅広い分野を対象に多角的な支援を行います。

沖縄は古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特の文化芸術を育んできた。文化芸術は、県民の生活に深く根ざし、繰り返された世変わりにおいても、新たな時代を切り開く心のよりどころとなった。文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものである。このような認識に立ち、私たちは、かつて琉球の時代に人と文化の架け橋となった先人の万国津梁(しんりょう)の精神を受け継ぎながら、守り育ててきた文化芸術を次代に引き継ぐとともに、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造していくことを決意し、この条例を制定する。

(沖縄県文化芸術振興条例 前文より)

こうした認識に立ち、公益財団法人沖縄県文化振興会では沖縄県からの委託を受け、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」に取り組むことで、県内の文化芸術団体等へのさまざまな支援を行っています。

沿革

平成5(1993)年度
財団法人沖縄県文化振興会設立

平成23(2011)年度
公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更。
沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される。

平成24(2012)年度
～平成29年(2016)年度
文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」を実施。

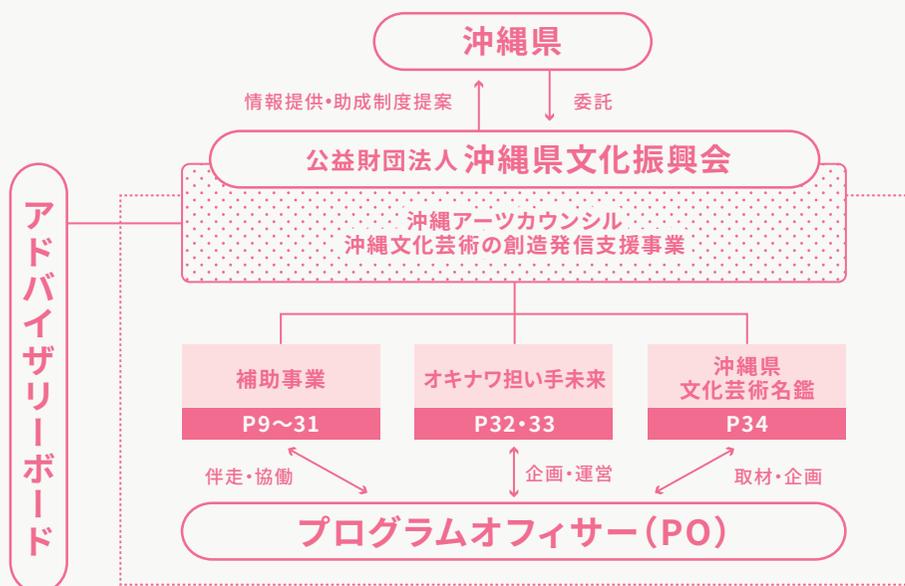
平成29(2017)年度
～令和3(2021)年度
「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施。

令和4(2022)年度～
「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」を開始。令和8(2026)年度までの継続を予定している。

関連する条例・施策



沖縄県文化振興条例



メンバー紹介

アドバイザーボード(AB)

アドバイザーボード(AB)は、沖縄県内外の文化芸術分野における専門家等で構成され、事業の選定及び評価・検証、アーツカウンシル機能全般への助言を担います。

那覇文化芸術劇場なはーと企画制作グループ長
林立騎 Tatsuki Hayashi

八重山郷土史家
大田 静男 Shizuo Ota

NPO法人地域サポートわかさ理事
宮城 潤 Jun Miyagi

プロジェクト・コーディネーター / 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授
若林 朋子 Tomoko Wakabayashi

プログラムオフィサー(PO)

プログラムオフィサー(PO)は、採択事業へのハンズオン支援をはじめ、文化芸術に関する相談対応、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行います。

チーフプログラムオフィサー

上地 里佳 Rika Uechi

宮古島市出身。大学院でアートプロジェクトの現場に携わったことを機に、東京都三宅島や富山県氷見市にて事務局スタッフに従事。2016年からアーツカウンシル東京での中間支援業務を経て、2021年より現職。

真栄城 桃子 Momoko Maeshiro

読谷村出身。大学時代にミュージカルに出会い、何らかの形で文化と芸術を仕事にしたいと思い活動。2019年3月までの4年間は西原町教育委員会で、さわふじ未来ホールの自主事業の企画運営等に携わる。

八巻 真哉 Shinya Yamaki

愛知県出身。前職では京都府文化スポーツ部文化スポーツ芸術課に所属し、地域文化振興担当として、京都府域展開アートプロジェクト事業や京都府地域文化創造促進事業等のプログラムディレクターを務める。京都府地域文化創造促進事業では、文化活動を支援する専門人材(地域アートマネージャー)を京都府の広域興局に配置し、それぞれの地域で文化活動を支援する体制を作っていた。

具志 幸大 Yukihiro Gushi

那覇市出身。幼少の頃より琉球舞踊、琉球古典音楽を学ぶ。2001~2002年世田谷パブリックシアター&佐敷町シュガーホール共同製作「音楽劇ふたごの星(原作/宮沢賢治 演出/佐藤信 作曲/中村透 美術/有賀二郎)」出演。2006年舞踊リサイタル開催(国立劇場小劇場・国立劇場おきなわ大劇場)。2008年古典音楽と創作曲による演奏会開催。2021年舞踊リサイタル開催(国立劇場おきなわ大劇場)。これまで12年間にわたり県内の高校生に琉球芸能を指導。

小川 恵祐 Keisuke Ogawa

山形県出身。沖縄県立芸術大学大学院修了。専門は民族音楽学。2017~2022年南城市文化センターシュガーホールにて音楽公演の企画制作や教育事業を担当。並行して琉球芸能や現代音楽、伝統舞踊、現代演劇のプロジェクトに取り組み 2022年より現職。

橋口 知佳子 Chikako Hashiguchi

栃木県出身。大学院にて文化施設での文化芸術活動に関する研究を行った経験から、全国の劇場・ホール施設の計画・設計のコンサルティングを行う会社に就職。3年間従事した後沖縄に移住し、2022年より現職。

喜舎場 梓 Azusa Kishaba

那覇市出身。沖縄県内の民間劇団にて、16年間、舞台制作・芸能マネージャーとして従事。地域課題の解決・緩和に向けた演劇ワークショッププログラムを開発するなど、ワークショップコーディネーターとしても活動している。主なプロデュース公演に、令和3・4年度文化庁戦略的芸術文化創造発信支援事業「黄金文化再発見」(主催:日本劇団協議会)などがある。2023年より現職。

担当文化専門員

池畑 陽介 Yosuke Ikehata

兵庫県出身。東京で和太鼓の会社に従事。和太鼓コーディネーターとして演奏者のマネジメント、旅行者向け体験プログラムや企業向けチームビルディングイベントの企画運営等に携わる。沖縄に移住後は、旅行雑誌の広告営業を経て、2018年より沖縄県文化振興会で沖縄県芸術文化祭、文化活動支援助成事業を担当。2023年12月まで在籍。

担当文化専門員

奥間 恵 Megumi Okuma

宜野湾市出身。沖縄県内の飲食チェーンで20数年企画・開発の業務に携わり、主に商品開発を担当。その後ショッピングセンターのカスタマーサポート業務、航空会社のサービス及びオフィスワークに携わり、2024年より現職。

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について

「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」では、文化芸術に関する事業を行う県内の団体や個人事業主を対象に、3つの区分で公募を実施し、採択された事業を支援しています。

補助対象/補助上限額

	条件	条件	条件		
団体	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体	スタートアップ 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体 <small>※「団体設立から5年未満」または「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業の採択実績がない」団体</small>	個人事業主 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う個人事業主		
	補助金額			補助金額	補助金額
	上限500万円			上限100万円	上限100万円
	補助率	補助率	補助率		
	1年目=90% 2年目=80% 3年目=70%	1年目=90% 2年目=80% 3年目=70%	90% <small>※個人事業主の補助回数は1回限り</small>		

事業区分

区分1 文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

- ・文化芸術活動の継続や強化に向けて、事務局体制の向上や基盤強化を図る取り組み
- ・文化芸術活動を支える担い手等の育成・継承に関する取り組み
- ・個人事業主による文化芸術活動の継続や強化に向けた自己研鑽に係る取り組み
- ・オンライン配信や映像制作のスキルアップのための取り組み など

区分2 文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

- ・認知度の向上やリピーター獲得に向けた体系的な計画を有する取り組み
- ・創作人材の育成に係る魅力ある創造発信を伴う取り組み
- ・アーティストの交流等を促進する取り組み
- ・一過性のイベントではなく、新規性が見られるライブや上映会、公演、展覧会 など

区分3 文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み

- ・県内の民間事業所(観光、まちづくり、産業等関連分野)や教育機関(各種学校、図書館、博物館、公民館等)と連携して行う取り組み
- ・共生社会実現に向けて関係機関(福祉、国際交流等関連分野)と連携して行う取り組み など

令和5年度公募期間

団体/スタートアップ/個人事業主

相談期間 3月16日(木)～4月17日(月)

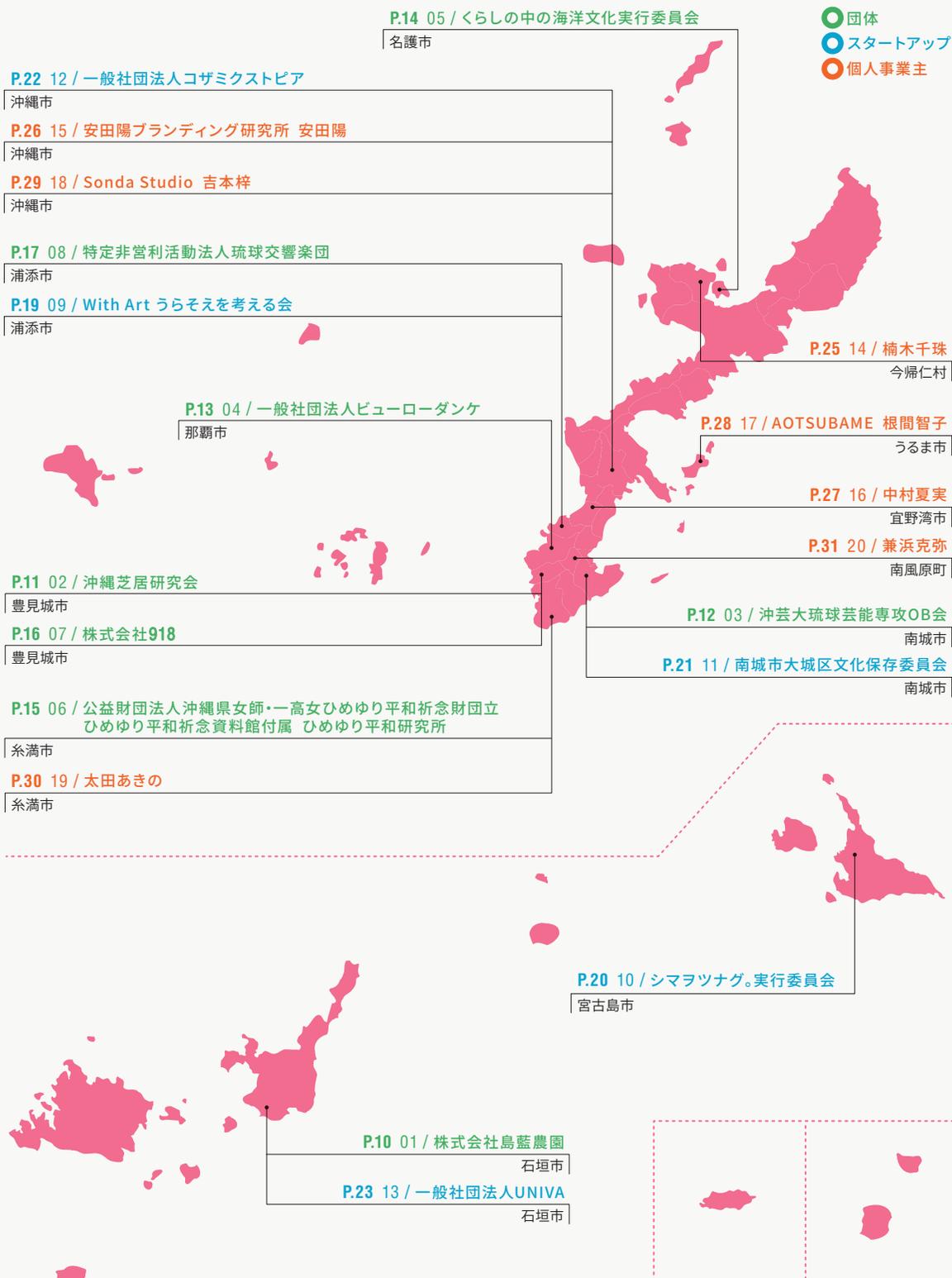
受付期間 4月18日(火)～4月21日(金)

応募数 団体 26件 / スタートアップ 5件 / 個人事業主 14件

令和5年度スケジュール



令和5年度採択事業者の活動拠点



OKINAWA

ARTS

COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業

○ 支援事業のご紹介【団体】

P.10 01 / 株式会社島藍農園

P.11 02 / 沖縄芝居研究会

P.12 03 / 冲芸大琉球芸能専攻OB会

P.13 04 / 一般社団法人ビューローダンケ

P.14 05 / 暮らしの中の海洋文化実行委員会

P.15 06 / 公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館付属 ひめゆり平和研究所

P.16 07 / 株式会社918

P.17 08 / 特定非営利活動法人琉球交響楽団



「藍のある生活」推進事業

株式会社島藍農園

<https://shimaai.com>



事業概要

八重山上布やミンサー織などの染色に用いられてきた八重山藍。原料の「ナンバンコマツナギ」に関するワークショップや勉強会、他地域事例を知る講演会に加えて、藍染を身近なものに感じてもらう仕組みづくりを検討するなど、多様なかたちで暮らしと藍の関わりを体験する場をととして「藍のある生活」の基盤を形成した。

取組概要

- ① 小学校で行う「八重山藍」についての体験学習プログラムの開発
高学年向けテキストの検討、試作開発。
- ② 大人向けの「八重山藍の勉強会(ワークショップ)」の開催
日程：1月15日・22日・29日 会場：島藍農園
- ③ 他の地域での「藍のある生活」の取り組みや工夫について学ぶ「講演会」の開催
講演会「藍の知られざる側面」
講師：透野未来(彩波出版 代表)
日程：2月4日 会場：Neo earth cafe -Roots
「八重山藍の生葉染めワークショップ」
日程：2月5日 会場：Neo earth cafe -Roots
- ④ 「インディゴマイル」の実証実験
各家庭や学校で八重山藍を栽培・収穫してもらい、ポイントを付与。染め直しなどをポイント利用できる仕組みの検討。検討委員による勉強会実施。

POコメント

八重山諸島では、琉球藍とは異なる南方系の植物を使った藍染が、古くから存在しており、地域特有の織物などに使われてきました。しかし、行程手順に手間がかかる藍染は敬遠されるようになり、今では原料を栽培する農園も数少ないと聞きます。今回の取り組みでは、地域の方々が原料を育て、収穫し、藍染を経験するというサイクルを目指しました(インディゴマイル)。自らが栽培した原料で藍染をする。空気に触れて、鮮やかな藍色に染まる様子を嬉しそうに眺める姿に、大量生産型では得られない確かなニーズ(欲求)を感じました。(喜舎場)



上/ナンバンコマツナギ収穫の様子
下/大人向けの「八重山藍の勉強会」の様子



沖縄芝居における大道具製作の技能伝承

沖縄芝居研究会

<https://www.facebook.com/okinawashibaikenkyukai/>



事業概要

後継者不在である沖縄芝居大道具(舞台セット)製作者を養成するための環境づくりを行った。舞台美術家より指導を受け製作を行い、その過程の記録映像や今後のための資料を残すほか、未来の人材発掘と問題提起のための子ども向けワークショップも実施。披露会にて製作物の展示と記録映像の上映を行うなど、沖縄芝居の現状周知に努めた。

取組概要

①大道具の製作

日程：9月22日、11月26日、1月17・24・28・31日

講師：新城喜一、新城榮徳

会場：浦添市中央公民館分館工作室、
那覇市若狭公民館ホール

②ワークショップ

「こどもおどろぐきょうしつ」(中学生以下対象)

日程：8月15日

「大道具教室」(高校生以上対象)

日程：10月7日

講師：玉城智子、伊良波輝人

会場：浦添市立中央公民館分館工作室

③成果披露会

日程：2月4日

会場：那覇文化芸術劇場なは一と大スタジオ

POコメント

沖縄芝居は150年の歴史の中で、平成時代は若手不足が問題視されていたところ、沖縄芝居研究会は、一つの公演、一人の役者の育成を地道に積み重ね、12年の間に多くの若手役者を輩出するなど、沖縄芝居継承の中核を担う団体へと成長しています。ところが今度は、大道具の製作者が高齢の新城兄弟のみという問題を目の当たりにすることとなります。早速、大道具継承に意欲のある若者を発掘し、本事業をとおして新城榮徳・喜一氏より指導を受ける機会をつくりました。今後は製作場所の確保、保管場所が問題となりますが、沖縄芝居に懸ける情熱で打開策を見つけていきます。(具志)



上/絵筆をとって指導する新城喜一氏 下/披露会での製作物展示コーナー



CASE 03 持続可能な沖芸大琉球芸能専攻OB会の 未来を創る基盤形成事業 続編

沖芸大琉球芸能専攻OB会

<https://www.facebook.com/okigeidaio>



事業概要

持続可能な組織基盤づくりのために、前年度は役員向け経営アドバイス、会員向けセルフマネジメント講座、会員意識調査を行った。今年度は会員の困りごとの解決と、当会の課題である「法人化」への模索、会員相互のマネジメントスキルと組織力アップを図り、伝統芸能の地位確立や持続可能な文化活動の未来を考える機会を創出した。

取組概要

- ①法人化に向けた役員へのアドバイスと指導
講師：栗原邦夫、社会保険労務士法人 TIS、
比嘉久泰税理士事務所
日程：7月～2月（全18回）
- ②会員向けのスキルアップ講座と勉強会
講師：栗原邦夫、山田一成、伊藤康雄、仲宗根玲子、
横目大道、和田信一
日程：8月～2月（全19回）
- ③事務局体制強化のための人員配置
日程：7月～2月
- ④学校公演用教材づくり
日程：7月～8月

POコメント

2年目の今回は、引き続き経営のノウハウや税務に関する
ことに加え、舞台以外に必要なスキルを身に付けるための
研修も行われました。「幼い子たちの心を捉えるには、初
めて観た時の印象が大事」との視点で行われた紙芝居師に
よるWSでは、語りの抑揚や観客の反応を感じながら演技
をすることに、参加者は笑顔ながら熱心に、時には闘争心
を持って臨んでいました。OB会のメンバーが今回の事業
をとおして得たノウハウを会員が広めることで、沖縄芸能
界全体の底上げにつながることを期待されます。（具志）



上/子どもに伝える力と表現講座 下/自信の持てる女の着付け講座



クラシックでしまくとうばワークショップ事業

一般社団法人ビューローダンケ

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100084214595934>



事業概要

ことばと音楽の関係に着目し、声楽や器楽において楽曲・作品の読解力を深めるワークショップを重ねることで「沖縄独自のクラシック音楽の演奏スタイル」を探求。実演家が自身とクラシック音楽との関係性を問いながら、自分から立ち上がる表現法・演奏法を模索し、互いの音を聴くなかでの実感や気づきの言語化を試みた。

取組概要

①ワークショップ #01「言葉と音楽」

日程：12月1日～3日

会場：浦添市ハーモニーセンター、
那覇文化芸術劇場なはーと大スタジオ

講師：浜田理恵(オペラ歌手・新国立劇場オペラ研修所講師)、
三ツ石潤司(作曲家・コレベティール・新国立劇場オペラ研修所講師)、
カルリノ・サルヴァトーレ(伊平屋島方言研究者)、
金城真次(国立劇場おきなわ芸術監督)

オブザーバー：榎本空(神学者・文化人類学研究者)、和田信一(歌三線奏者)

②ワークショップ #02「ウィーンスタイル」

日程：2月3日～6日

会場：浦添市ハーモニーセンター、てだこホール練習室

講師：榎本麻衣子(ヴァイオリン)、Wolfgang Schuchbaur(ヴァイオリン)、
Paul Rabec(ヴィオラ)、Erik Umenhoffer(チェロ)、
Andreas Nell(オーボエ)、Gergely Sugar(ホルン)、
幣隆太朗(コントラバス)、宇根康一郎(クラリネット)、
三ツ石潤司(コレベティール)

指揮：Georg Sonnenleitner

オブザーバー：榎本空(神学者・文化人類学研究者)

③事業広報活動

POコメント

昨年度の気づきや課題を踏まえ、ワークショップ全体を文化人類学的視点から言語化する試みや、琉球芸能や言語学の専門家を招いた対話など、ことばと音楽の関係により踏み込む一年となった本事業。ワークショップには公募で集った学生や若手演奏家が多く参加し、ウィーンで活躍するプロ奏者とのセッションを通じて技術研鑽につながっている様子も伺えました。本事業をとおして紡がれたことばや他者と音を重ねた経験が、「沖縄独自のクラシック音楽の演奏スタイル」をかたちづくる音や表現につながっていく予感を感じさせてくれます。(上地)



上/ワークショップ #01「言葉と音楽」の様子
下/ワークショップ #02「ウィーンスタイル」の様子



くらしの中の海洋文化

くらしの中の海洋文化実行委員会
<https://kurashi-kaiyou.jimdosite.com/>



事業概要

沖縄の海洋文化の象徴である伝統船サバニの造船、操船技術をとおして、海と人とのつながりを紐解き、子どもや女性を含む広い関わりの創出をめざした。造船技術の工程の記録や技術継承に関する取り組みの発信、他地域で取り組む団体や個人との意見交換、操船技術やサバニの運用を実践するクラブの立ち上げを行った。

取組概要

- ①多様な人が関わる造船と、造船技術の記録、発信
 期間：7月～2月
- ②他地域での木造船の伝承取り組みに関する意見交換
 日程：12月1日～3日
 会場：滋賀県 wooden boat center
 対象：ダグラス・ブルックス 他
- ③サバニクラブ活動
 日程：7月～2月（全8回）
 会場：今帰仁村民の浜、糸満市潮崎南浜公園ビーチ

POコメント

2年目となる本取り組み、サバニクラブ活動もエリアを広げ、回数も増やし展開、活動を記録の面からサポートしてくれる方も現れ、着実にサバニ（海洋文化）ファンが増えていると実感しました。そして今回も、昨年度のコメントでも書いたように、関わる皆さんがとにかく楽しそう！なんです。造船の工程では女性でも扱いやすいサバニを目指し活発な意見交換をしているメンバーの姿が頼もしく、どんなサバニが出来上がるのか今から楽しみです。（八巻）



上/サバニクラブ活動の様子 下/造船技術の記録



CASE 06 “ひめゆり”を伝える ワークショップ開発・実践プロジェクト

公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属 ひめゆり平和研究所

<https://www.facebook.com/HIMEYURI.PEACE.RESEARCH.CENTER>



事業概要

「沖縄戦の継承」という課題をひめゆり学徒の歴史をと
おして広く伝えるため、展示と学び手をつなげるワー
クショップを開発・実践。沖縄県系人が多くひめゆり
ともゆかりがあるハワイにおいて展示会を開催すると
ともに、現地と協働しながらワークショップを実践し、海
外向けの平和教育プログラムのモデル構築をめざした。

取組概要

- ①INMP ウプサラ会議での発表(オンライン参加)
日程：8月14日 スウェーデン ウプサラ
10月29日 国内INMPウプサラ会議参加者による報告会
- ②特別展「ひめゆりとハワイ」の開催
日時：9月2日・3日～2024年1月31日
会場：ハワイコンベンションセンター、
ハワイ大学西オアフ校図書館、ハワイ沖縄センター
- ③海外向け“ひめゆり”を伝えるワークショップの開発と実
践
講師：ひめゆり平和祈念資料館学芸員 古賀徳子
株式会社うなゐ沖縄 代表 玉城直美
期間：1月12日・13日
会場：ハワイ大学西オアフ校図書館(12日)
日本人学校レインボー学園(13日)
対象者：大学生・教員・社会人(12日/14名)
中学3年生(13日/23名)

POコメント

ひめゆり学徒隊の戦争体験や記憶を、沖縄戦を経験してい
ない世代にどう継承していけるのか、さまざまな試みを重
ねてきたひめゆり平和研究所。コロナ禍によって断念され
ていたハワイでの展示が、約4年の構想期間を経てついに
実現しました。展示に加えて、コロナ禍で開発したワー
クショップも行うことで、現地ではあまり知られていない
ハワイとひめゆりの縁や、平和への考えを深める機会と
なったようです。不安定な世界情勢の昨今、今を生きる私
たち一人ひとりが学び、考える場を立ち上げていくことが
重要であることを強く感じる事業です。(上地)



上/オキナワン・フェスティバル展示会場の様子(ハワイコンベンションセンター)
下/ワークショップの様子(ハワイ大学西オアフ校図書館)



音声ガイド・日本語字幕付き沖縄映画鑑賞創出事業

株式会社 918

<http://eiganomikata2023.okinawa/>



事業概要

沖縄を舞台に製作された映画に音声ガイド・日本語字幕をつけ、視覚や聴覚が不自由な方、その家族や友人など、だれもが一緒に映画を楽しめる環境づくりを試みた。今年度は県内福祉施設等での短編上映に加えて、複数作品を楽しめる「バリアフリー沖縄映画祭」を開催することで、多様な上映環境と鑑賞体験の場の創出をめざした。

取組概要

- ① 作品選定(長編2本、短編3本)、
音声ガイドナレーション収録・字幕作成
- ② 県内キャラバン上映会
日程：11月24日、12月5・9・12・20日、1月12日
会場：沖縄県視覚障害者福祉協会、
沖縄市障がい者福祉協会など計6箇所
- ③ 音声ガイド・日本語字幕付き沖縄映画祭
「ゆんたく映画祭」の開催
日程：12月5日・6日
会場：沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
長編作品：『10ROOMS』『沖縄を変えた男』
『不死鳥の泉』『洗骨』
短編作品：『こんな菊灯りの夜に』『演じる女』
『闘牛女子』『陽いづる』

POコメント

映画鑑賞後、感想を手話で伝えたり、音声ガイドからのイメージを共有したり、みんなで話す時間を大切に映画祭にしたいという思いから名づけられた「ゆんたく映画祭」。上映の合間に設けた「ゆんたくタイム」では、映画監督や出演者と観客との賑やかな交流が生まれた一方、取り組みの周知不足に関するご意見も。情報発信の工夫やことばの表現、学ぶべき事例や技術など、今後の運営をめぐる喧々譁々と話ができただけで、確実にチーム内の意識が変わったように思います。今後の展開につなげていくべく、試行錯誤はこれからも続きます。(上地)



上/音声ガイド録音の様子 下/「ゆんたく映画祭」ゆんたくタイム



音楽の力で人、街を元気に！

特定非営利活動法人琉球交響楽団

<https://www.ryukyusymphony.org/>



事業概要

子育て世代や、遠方への外出が困難な方々へ演奏者が地域の身近な場所へ出向き「公民館コンサート」「まちなかコンサート」を開催。気軽に参加できる公民館、図書館、市場などで演奏を行い、地域の皆さんと一緒に楽しみ、「音楽の力で人、街を元気に！」をめざした。また、行政・企業などとも積極的に連携し、協働で事業に取り組んだ。

取組概要

- ① 公民館コンサートの開催
2～5名のアンサンブル編成ミニコンサート
日程：8月～2月(全26箇所)
会場：名護市内公民館
- ② まちなかコンサートの開催
2～5名のアンサンブル編成ミニコンサート
日程：1月(全9箇所)
会場：名護市内各所
- ③ 音楽マルシェの開催
日程：1月28日
会場：名護市民会館中ホール
- ④ 支所めぐりコンサートの開催
日程：11月11日ふれあいコンサートin羽地
会場：羽地地区センター
日程：12月21日ふれあいコンサートin久志
会場：久志農村環境改善センター

POコメント

芸術性の高いクラシック音楽が日常の中に溶けこんでいくような愛情の溢れる事業が、昨年に続き名護市で展開されました。公民館において小編成のクラシック音楽が奏でられ集落に響き渡り、ある時はスーパーで買い物しながら、市民の皆さんが気軽にクラシック音楽に親しむ機会が提供されました。この小さな積み重ねはやがて「支所コンサート」へと発展し、地域の中に大編成の本格的なクラシック音楽が届けられました。「音楽マルシェ」にも多くの人が訪れる等、クラシック音楽で街が活性化しました。(具志)



上/音楽マルシェ 下/公民館コンサート(港区公民館)

OKINAWA ARTS COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業

○ 支援事業のご紹介【スタートアップ】

P.19 09 / With Art うらそえを考える会

P.20 10 / シマヲツナグ。実行委員会

P.21 11 / 南城市大城区文化保存委員会

P.22 12 / 一般社団法人コザミクストピア

P.23 13 / 一般社団法人UNIVA



スタートアップ！ With Art うらそえ

With Art うらそえを考える会

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100093960773092>



事業概要

浦添市内のパブリックアートの写真展や県内アーティストによる個展、作品の展示販売を行うアートマルシェ、県外アーティストによるアートワークショップを実施。「場」「モノ」「人」をつなげ、アートによる交流と発信の場をつくることで、地域創造に取り組んだ。

取組概要

- ① 漆絵写真ワークショップ
『『ていだ結の浜』の景(かげ)～漆で描く面影模様～』の開催
日程：10月1日 講師：染谷聡(漆作家、京都)
会場：浦添市美術館 実習室、ていだ結の浜
- ② Art マルシェうらそえの開催
日程：11月5日
会場：浦添市美術館 ピロティ、港川レストラン rat&sheep
日程：11月23日～26日 会場：平敷兼七ギャラリー
- ③ 宜保朝子「TURN BACK art works.」展の開催
日程：1月24日～28日
会場：浦添市美術館 企画展示室 2
〈読み聞かせイベント〉
日程：1月25日 読み手：宮城さつき(フリーアナウンサー)
〈アーティスト・トーク〉 日程：1月27日 展示室内
協力：With Art うらそえの街づくりを考える会
- ④ 浦添パブリックアートの行方-ANA SPORTS PARK 浦添-
日程：2月13日～29日
会場：浦添市役所ロビー(2月13日～15日)
アイム・ユニバースでこホール内 浦添市文化協会(2月17日～21日)
ANA SPORTS PARK 浦添 体育館(2月23日～29日)
協力：浦添市文化協会 写真部会

POコメント

ワークショップ・マルシェ・展覧会と、アートによる交流の場が様々なかたちで展開されました。浦添市で活動するアーティストの作品や市内に点在するパブリックアートなど、地域で育まれてきたものの価値に目を向けながら、市外・県外のアーティストを巻き込むことで、多様なアートとの出会いの場が生まれていました。設立1年目ながらも、すでに市内の方々から今後の事業展開につながるお話が届いているとのこと。さらなる事業の拡がり期待されます。(橋口)



上/宜保朝子展アーティストトークの様子 下/漆絵写真WS作品



シマヲツナグ。

シマヲツナグ。実行委員会

<https://www.shimawo-tunagu.com/>



事業概要

宮古島の子どもたちの将来の可能性や視野を広げるきっかけとして、「クリエイター」という職業に触れる機会の創出をめざした。写真撮影や動画編集、デザインについて講師から学べるワークショップを継続して実施し、実践的な体験につなげることで、子どもたちの創造性を育む取り組みを展開した。

取組概要

- ①子どもたちとの活動の場『ツナグ！WORK！』の実施
 日程：7月～12月(全13回)
 参加者：宮古島市内の小学生・中学生・高校生
 講師：K8Z CONNECT(動画編集)
 ハレルヤPhoto&Tours(カメラ撮影)
 GGS(デザイン)
 Koretta(ハンドメイドアクセサリー)
 会場：未来創造センター 研修室、宮古島市内各所
- ②「シマヲツナグ。Vol.2」の開催
 日程：2月4日
 会場：JTAドーム宮古島

POコメント

2年目となる今年度からスタートした“ツナグ！WORK！”。教える・教わるという関係性にとらわれず、好きなこと・楽しいことを講師と子どもたちで共有し合うような場がそこにはありました。子どもたちは互いに刺激を受け合い、タブレットを使った作品づくりに新たに挑戦したり、宮古島の学生たちの写真を撮影してプレゼントする企画を始めたりと、自分のなかにある『好き』の表現を模索する姿もみられました。多様な大人たちとのつながり、そして子どもたち同士のつながりのなかで、彼らの持つ可能性をいかに育んでいくか、今後の事業展開に期待が高まります。(橋口)



上/ハンドメイド作家によるワークショップ
 下/「シマヲツナグ。Vol.2」でのツナグ！WORK！ブース



組踊「大城大軍」における 次代へ継承する新たな事業の取り組み

南城市大城区文化保存委員会
<https://ufugusiku.jimdofree.com/>



事業概要

継承の危機にある南城市大城区に伝わる組踊「大城大軍」における担い手の発掘と育成を目的に、次世代が組踊に接する機会を創出し、地域コミュニティの活性化を図った。八重瀬町志多伯との「芸能交流祭」や継続的な組踊ワークショップを通じて、地域の伝統芸能継承の体制や環境づくりのモデルを模索した。

取組概要

- ①ヒヤークイ！ 伝統芸能交流volume 1
 「伝統芸能の講話と交流会」
 日程：8月27日
 「伝統芸能のWS」
 日程：12月9・17・24・29日、1月4・6日
 「成果発表」
 日程：1月7日
- ②組踊「大城大軍」台本翻訳
 日程：6月～2月

POコメント

伝統芸能の継承者でもある大城貴幸氏を中心に、地域の方々が地元の民俗芸能の持続的な継承に向けての取り組みをはじめました。八重瀬町志多伯における民俗芸能の継承を模範としながら、交流として大城区のこどもたちが志多伯の方々から棒術を教わりました。それは芸能をとおして連携が生まれたことに加え、地域住民が公民館に集まるきっかけとなり、新たなコミュニティが形成されました。身に付けた技術は今後演じる組踊の基礎として、大城区にも息づくことでしょう。この事業をきっかけに「大城大軍」が再び大城区のシンボルとなっていきます。(具志)



上/ワークショップ参加(棒術) 下/芸能交流会(大城区)



CASE
12

場所の空間と商人の物語

一般社団法人コザミクストピア

<https://www.kozamixtopia.com/>



事業概要

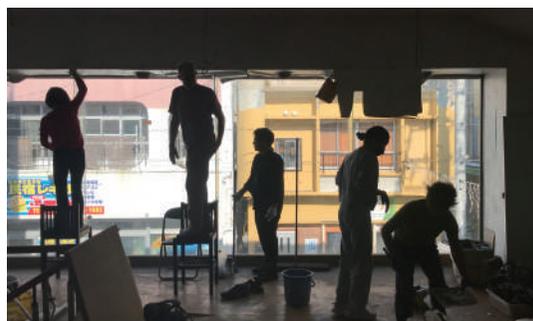
戦後から復帰、今に至る時代の変化とともに、独特の文化を形成してきた沖縄市照屋地域。本町通りやコザ十字路市場、黒人街と呼ばれたバー街など、歴史資料や地域住民への聞き取りによるリサーチを行い、地図や写真、映像を用いて商店街をインスタレーションすることで、まちの歴史や文化に重層的に触れる機会を創出した。

取組概要

- ① 歴史資料や地域住民への聞き取りによるリサーチ
期間：7月～1月
- ② まちなかインスタレーション
「場所と空間と商人の物語」の開催
日程：2月17日～24日
会場：コザ銀天街

POコメント

代表の池原エリコさんが重ねてきた綿密なリサーチと、銀天街の方々との関係性から実現した「場所と空間と商人の物語」。過去の写真や洋服をはじめとした記録資料の展示を見ながら、各所に散りばめられたQRコードから商売や生活をしてきた方々のさまざまな声と出会いながら、銀天街をめぐる。そこには、「世替わり」を経て、激動の時代に応答しながら逞しく生き抜いてきた人の強さがありました。ここに生きる人々が見つないきた歴史の先に、どのような新しいごめきが生まれていくのか楽しみです。（上地）



上/「場所と空間と商人の物語」の様子
下/「場所と空間と商人の物語」準備の様子



「Uni-q(ゆにーく)」演劇プロジェクト

一般社団法人 UNIVA

https://www.facebook.com/people/UNIVA/61550015046618/?locale=ja_JP



事業概要

地域の障害福祉サービス事業を出発点に、福祉団体とアーティストが協働し、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるインクルーシブな演劇ワークショップを継続的に行った。障害のある人による表現活動と自立を支援する仕組み構築とともに、石垣島発の劇団立ち上げをめざした。

取組概要

- ① 演劇基礎、朗読劇体験、絵本の読み聞かせ体験
日程：8月22日～24日、9月19日～21日、10月24日～26日、
11月1日～4日、12月21日～22日
講師：務川智正、児玉泰地、文字琴音、吉田宇留
- ② 成果発表
朗読劇「ぼくらはゆめをいきている」
日程：12月23日
会場：大川公民館

POコメント

アーティストが障害のある人に文化芸術を「とどける」アウトリーチ型の活動からの展開で、障害のある人自らがアーティストと協働し、主体的に表現活動を行う取り組みが近年全国的に広がっています。本事業では福祉サービス利用者だけでなく、不登校の子や移住者など、運営側含め石垣島選りすぐりの「ユニーク」な人々が演劇を通じて集まり、そこでは障害の有無という区別が意味をなさない場となりました。成果発表では満員の来場者がつめかけ、公演は大成功。「ここからがスタート」と意気揚々と話す参加者に、今後も目が離せません。(小川)



上/ワークショップ朗読指導 下/朗読劇通し稽古

OKINAWA

ARTS

COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業

○ 支援事業のご紹介【個人事業主】

P.25 14 / 楠木千珠

P.26 15 / 安田陽ブランディング研究所 安田陽

P.27 16 / 中村夏実

P.28 17 / AOTSUBAME 根間智子

P.29 18 / Sonda Studio 吉本梓

P.30 19 / 太田あきの

P.31 20 / 兼浜克弥



CASE 14 かまどでつくる琉球菓子伝承事業

楠木千珠

https://www.instagram.com/amesoko_nesoko/



事業概要

年間行事や慶弔行事に欠かせない琉球菓子だが、時代の変遷とともに触れる機会が減少している。当時の農業的特性やかまど調理技術で発達した琉球菓子の背景やつくりかたについて専門家との勉強会を実施するとともに、暦と菓子のつながりを可視化したカレンダーを制作し、琉球食文化や歴史の継承にむけた基盤形成をめざした。

取組概要

- ①かまどでつくる琉球菓子勉強会(全5回)
 - 日程： 7月30日「タウチーチャオ・アガラサー」
 - 8月27日「あまがし・ちんびん・ポーポー」
 - 9月24日「ちーるんこう・ふちゃぎ」
 - 10月29日「ちんすこう・うむくじあんだぎー」
 - 11月26日「花ぼうろ・ナントゥンスー」
- 講師：琉球料理伝承人 根路銘弘美
- ②琉球菓子 旧暦カレンダーの製作
今帰仁村内での配布

POコメント

琉球王朝時代、161もの種類があったという琉球菓子。かまどがある今帰仁村の古民家を会場にして取り組んだ全5回の琉球菓子勉強会には、ご近所の方々や琉球料理に関心がある方、教育関係者など大人から子どもまで満員御礼でした。かまどからの煙に涙目になりつつ、菓子が生まれた背景や素材や形状、琉球菓子と暮らしの結びつきに想いを馳せながら学ぶ時間は豊かなものでした。楠木さんは菓子づくりに欠かせなかった豚脂(ラード)に関心を寄せ、沖縄と豚の関わりをテーマにした企画が進行しているようです。今後の展開も見逃せません。(上地)



上/勉強会の受付と発表に耳を傾ける参加者
下/古民家で花ぼうろを作る参加者



CASE 15 小学生から高校生を対象としたDTMワークショップおよびDTMコンテストの実施による県内若手音楽制作人材の発掘・育成事業

安田陽ブランディング研究所 安田陽
<https://dtm.okinawa/>



事業概要

県内の若手DTM人材（パソコンやスマートフォンを利用し本格的な音楽制作を行えるクリエイター）の発掘・育成により、将来の選択肢を増やすことや、県内DTM市場の活性化をめざした。その第一歩として小中高校生を対象に、DTM入門者向けワークショップとコンテストを実施したほか、アンケートによる県内DTM市場の現状把握を行った。

取組概要

- ①DTM入門者向けワークショップの開催
 日程：7月23・30日、8月6・13・27日
 会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
 ※8/6(日)は台風接近のためオンラインで実施
 対象：沖縄県内在住の小中高校生
- ②スマホDTMコンテストの開催
 応募期間：10月1日～31日
 対象：沖縄県内在住の小中高校生
 「決勝大会」
 日程：12月3日
 会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂
 対象：沖縄県内在住の小中高校生
- ③県内におけるDTMに関するアンケートの実施

POコメント

県内の小中高生へDTMの魅力を伝え、将来の担い手となる人材を育成しようと、ベアシストの安田陽さんが企画したユニークな取り組みで、夏休み期間に実施されたワークショップには19名の子どもたちが参加し、スマホやiPadを使っての音楽づくりに挑戦していました。コンテストでは16名の中高生から44曲の応募があり、審査員を務めた音楽家らを驚かせるような質の高い作品もありました。また、ワークショップ実施日以外にもメールや対面で質問に答えアドバイスを行えるようサポート体制も充実させました。この事業をとおしてDTMの魅力が発信され、今後も多くの担い手が育っていくことでしょう。(具志)



上/スマホDTMコンテスト決勝大会の様子(参加者と審査員が全員登壇)
 下/DTMワークショップの様子



自分が描いた漫画のウチナーグチ版と英語版を作る事業

中村夏実

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100003878520177>



事業概要

「解離性障害」いわゆる多重人格という精神の病気をもち、自傷行為や精神科での身体拘束といった自身の体験について綴った漫画を、ウチナーグチ(沖縄方言)と英語に翻訳したものを作成した。それをを用いて、幅広い世代の地域の人たちや海外に住むウチナーンチュ(沖縄系人)に伝えることで、精神の病気について知ってもらう機会を生み出した。

取組概要

- ①漫画作品の英語版制作
制作期間：8～12月
翻訳：酒井莉沙子
- ②漫画作品のウチナーグチ版制作
制作期間：8～12月
翻訳：大谷高子
- ③ウチナーグチ翻訳ワークショップの実施
日程：9月11・26日、10月25日、11月22日、12月6日
講師：大谷高子、親川志奈子
会場：ハゲラキッズクラブ、アカンミキッズクラブ
- ④子どもたちへの贈呈イベントの開催
日程：12月26日
会場：ハゲラキッズクラブ、アカンミキッズクラブ

POコメント

自身が抱える精神の病気(「解離性障害」いわゆる多重人格)の体験を綴った漫画をウチナーグチと英語に翻訳するという取り組みに挑戦した中村夏実さん。翻訳をただ業者さんに任せ、出来上りを反映させるのではなく、翻訳に協力してくれた皆さんとワークショップのような形でコミュニケーションを図り、細かなニュアンスを納得するまで話し合い完成させました。夏実さんの「幅広い世代や地域の人たちに、精神の病気について知ってもらいたい!」という気持ちが伝わってくる一冊となりました。(八巻)



上/贈呈式後、完成した漫画を読んでもらっている小学生
下/翻訳ワークショップでウチナーグチを学ぶ



CASE 17 アオツバメからとどけるアート

AOTSUBAME 根間智子

<https://sugarcane-room.space/>



事業概要

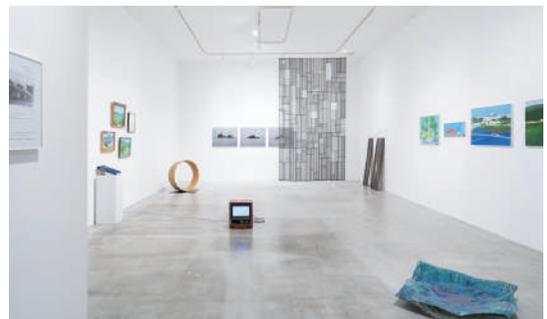
都市部と離島間における文化芸術を享受する機会の格差を重要な問題と捉え、宮城島において恒常的に地域にひらかれた「場」を創設し、幅広いジャンルの芸術を紹介する展示会やワークショップなどを開催した。このような機会の創出により、地域に根ざした人材育成・創造発信・文化芸術交流の拠点となることをめざした。

取組概要

- ① 地域についての勉強会とリサーチ
期間：7月～11月
- ② 展示会「離れている島」の実施
準備期間（“場”づくりやWEBサイト制作等）：7月～12月
展示会期間：12月23日～31日
参加作家：石垣克子、島袋克史、永津禎三、根保幸徳、
根間智子、サンドラ・ラモス
キュレーター：岡田有美子
〈ギャラリーツアー〉12月24日
〈陶芸ワークショップ〉12月30日
- ③ 図録（記録制作）内容の打ち合わせ
期間：7月～11月
完成：12月

POコメント

芸術に触れる機会の少ない島嶼地域において、常設に開かれた「場」を目指し、Sugarcane Room Gallery+Caféが宮城島の製糖工場跡にオープンしました。そして、根間智子さんを含むアーティストとキュレーター4名のメンバーからなるグループ“AOTSUBAME”による展示会「離れている島」で幕が開きました。子どもから大人まで、島民をはじめ多くの方々が来場し、絵画・写真・映像・インスタレーション・工芸といったさまざまな芸術作品に触れる機会となりました。また、島の長老・根保幸徳さんへのヒアリングの内容や島の歴史も紹介されました。この空間は宮城島のもう一つの魅力として、多くの方々に親しまれていきます。（具志）



上下／展示会「離れている島」の様子



沖縄に自生する月桃の調査、研究、普及事業

Sonda Studio 吉本梓

<https://shell-ginger.com/>



事業概要

沖縄県内における月桃の生態や活用調査に加えて、月桃を用いたものづくりを支えるコミュニティがある台湾でのリサーチを行った。調査した内容をワークショップやウェブで共有することで、生活に身近な素材としての価値を見つめなおし、現代における月桃活用の可能性を模索した。

取組概要

- ①月桃調査(沖縄県内)
期間：7月～2月
場所：株式会社平成造園ほか
- ②月桃調査(台湾)
期間：9月5日～9月12日
場所：MASLINAGAN STUDIOほか
- ③ワークショップ「月桃実験室」の開催
「粽とムーチャー会」
日程：11月17日
会場：嘉手納町公民館
「蒸留会」
日時：11月19日
会場：proots Okinawa
- ④Webサイトの制作

POコメント

これまで月桃を素材としたものづくりやワークショップを重ねてきた吉本梓さん。沖縄や台湾調査での月桃をめぐる多様な気づきをまとめた「月桃冊子」には、月桃の特徴や台湾で活動する方々の想いが丁寧に描かれ、月桃への飽くなき好奇心と熱量を感じさせてくれます。この冊子は書き込める余白があるのも特徴で、冊子を手にした方々が月桃調査員のように、ノートを育てていくような仕掛けにもワクワクさせられます。本事業での実験とおして生まれた出会いが、どのような展開に結実していくのか期待が膨らみます。(上地)



上/台湾での月桃調査(石山部落コミュニティ) 下/月桃調査をまとめた成果物



CASE 19 「基地とハーフ」多様なルーツを持つ人のアイデンティティ形成過程とその葛藤をドキュメントした映像作品

太田あきの

<https://are-you-mydad.com/>



事業概要

「アメラジアン」のウチナーンチュである自身も被写体となりながら、沖縄社会におけるエスニック・マイノリティの取材をとおして、対談やインタビューをまとめたドキュメント映像作品を制作した。差別や偏見をなくし、多様なルーツやアイデンティティを尊重し合う大切さを、上映会やトークイベントを通じて発信した。

取組概要

- ①父親を知らないアメラジアンが父と対面するまでを記録したドキュメント映像の制作
ドキュメンタリー作品『あなたが私のパパですか?』
- ②県内のアメラジアンの方へのインタビュー映像の制作
インタビュー対象：ShotGunDandy
- ③完成したドキュメンタリー作品の上映と講演会
日程：12月22日
会場：FREE ZONE(沖縄市)

POコメント

当初、涙ながらにこの企画をプレゼンされていた太田あきのさんですが、最後の上映会では(筆者含め)多くの来場者の涙を誘い、ご本人は満遍の笑みだったのが印象的でした。映像は自身とその家族を映す一見ごく個人的な内容でありながら、インタビュー取材や上映会をとおして、徐々に普遍的なテーマをもったプロジェクトに発展していきました。人種的マイノリティに対する無意識の偏見や差別、あるいは沖縄における基地問題など、複雑でつらい目を背けたくないような社会課題について、ゆるやかに対話する場が育まれていました。(小川)



上/祖母にインタビュー 下/父と墓参り



障害者が自由に表現できる場を地域に創出する事業

兼浜克弥

<https://sites.google.com/view/hapiwan-next/>



事業概要

精神の病を持つ人と地域の人たちが、演劇・音楽・美術といった表現活動とおした交流によって、互いに理解し認め合える機会の創出をめざした。障害の有無にかかわらず自由に活動できる場として、公民館での定期的なワークショップと発表会を実施し、参加者にとっての新たな気づきや心の変化につなげることを目標に、取り組みを展開した。

取組概要

- ①表現ワークショップの開催
日程：8～12月(全10回)
講師：島袋寛之、桃原夏子
会場：普天間2区公民館、野嵩2区公民館
- ②地域での発表会の開催
日程：12月23日 会場：普天間2区公民館
- ③作品出前発表の実施
「沖縄国際大学祭での作品展示・発表」
日程：11月25日 会場：沖縄国際大学 5号館ロビー
「南城市立知念小学校での演劇発表・講座の実施」
日程：12月11日 会場：南城市立知念小学校
「メンヘラズ in 太平通り商店街」
日程：12月30日 会場：太平通り商店街(那覇市松尾)

POコメント

今回の取り組みには、統合失調症・解離性障害・ギャンブル依存症・発達障害・うつ病などさまざまな精神疾患を持つ人たちが参加し、疾患について子どもたちに伝えるための劇づくりを軸に実施されました。劇には子どもたちとの対話のシーンを織り交ぜ、試行錯誤を重ねながら作り上げられました。一緒にワークショップに参加させてもらい最も印象的だったのは、表現活動とおして、参加者1人1人の持つ素敵な個性が見えてきたことでした。“障害者”というフィルターを取り払い“その人自身”を知ることができる、表現・芸術の持つ力を実感した事業でした。(橋口)



上/表現ワークショップ 下/地域での発表会

令和5年度 沖縄文化芸術の創造発信支援事業

オキナワ担い手未来

書類審査により選考された方を対象に全9回の講座を実施。各講座で講師を招き、社会における文化芸術の価値の形成や、事業運営・組織構築のためのノウハウを、講義+ワークショップの形式で学んだ。



Chapter.1 2023年7月22日(土)14:00~17:00

九州大学大学院 芸術工学研究院教授
講師 中村美亜 Nakamura Mia

タイトル 「文化芸術の価値とは何か」

「なぜ文化芸術は必要なのか」、世界各国でさまざまなアーツプロジェクトが展開されている。それらの取り組み事例を交え多角的に読み解きながらその特徴や課題について学んでいく。文化芸術の価値について、ワークショップを交え議論する。

受講生感想

文化芸術が、内向きのモチベーションに終止するような主体性だけでなく、場を作り、そのプロセスを共有することで他者と出会い、新たなコミュニケーションの可能性、つまり「社会的価値」を産出することができるということが理解できた。

Chapter.2 2023年8月5日(土)14:00~17:00 ※台風6号の接近に伴い9月9日(土)に振替開催

株式会社ヌーラボ代表取締役
講師 橋本正徳 Hashimoto Masanori

タイトル 「自己組織化できるチーム作りを考える」

これまでの組織運営から得た「会社は仲良しチームじゃないと、最高の成果は出ない」という結論を軸に、「いいチームの作りかた」について具体的な施策も交えて紹介。その後チームビルディングのワークショップを実施し、コミュニケーションのコツや難しさを体感する。

受講生感想

身体を動かして行うインプロのワークが面白くて、参加メンバーと一緒に笑った空間が心地よくて、全体を通して楽しかったという感想に尽きる。コミュニケーションによる場の空気の共有と、些細な言動にでもクリエイティブなことを見出す、あるいは付与する作業は、もっと若い頃、何なら中高生くらいのころから取り組むべきものだと思えた。

Chapter.3 2023年8月19日(土)14:00~17:00

沖縄県立芸術大学准教授
講師 呉屋淳子 Goya Junko

タイトル 「『地域芸能』から考える地域の未来」

人々と直に対話し、人々との協働と創造をとおして、学問を公共的なものへと開こうとする学術実践が人文学のさまざまな領域で活発になっている。地域社会と研究者が地域の無形文化遺産の継承をめぐって「共に」考え、実践を行った活動を事例に、専門家と住民による協働的な実践の可能性と課題について、パブリック・ヒューマニティーズの視点から考える。

受講生感想

継承主体となる次世代の担い手にアピールするためには、単なる「昔から伝承された芸能」ではなく、その時代の感性にアジャストした形で芸能そのものを再考することも必要であると感じた。その意味で、地域芸能をとらえなおし、新しいアートを作る試みに挑戦したいと思う。



Chapter.4 2023年9月2日(土)14:00~17:00

講師 編集家/プロジェクトエディター/デザインプロデューサー
紫牟田伸子 Shimuta Nobuko

タイトル 「地域のコミュニケーションをデザインする」

文化や芸術は、ある土地やまちの人々のなかに、いかにして固有な文化的価値を形成するのか。その土地ならではの次世代の地域文化を形成するプロジェクトについて、さまざまな事例をもとに考えていく。

受講生感想

表現をする側と、表現をして欲しい側が上手くマッチングして、世界が自由に遊べる場になれば良いと思う。レジデンスというものが、その手助けとして機能して、循環し、それが普通になれば、受け入れていた側が、表現側にまわったりと、新しい反応が起きるのではないかと思う。いろいろな角度で考えられる「レジデンス」ではあるが、自分なりにまだまだ模索していこうと思う。

Chapter.5 2023年9月16日(土)14:00~17:00

講師 EDGEof INNOVATION LLC, CEO
小田嶋Alex太輔 Taisuke Alex Odajima

タイトル 「文化芸術に事業性を持たせるために」

クラウドファンディングやICOといった新たな資金調達的手法を、芸術活動の資金調達としてどう活用するか。そして、芸術活動に事業性を持たせ継続性を高めるためにはどういった発想が必要となるかについて学ぶ。

受講生感想

自身の経験としては融資も投資も受けずに自己資金での起業で且つとても小さい会社だったので、もっと大きな利益を生み出せるような事業の作り方、その事業を継続していく時に必要な考え方の解像度が高まった気がします。

Chapter.6 2023年9月30日(土)14:00~17:00

講師 美術家/沖縄県立芸術大学美術工芸学部准教授
阪田清子 Sakata Kiyoko

タイトル 「オルタナティブスペースの運営と取り組み」

取り組み内容も実験的で先鋭的な表現のインキュベーション機能を担っているといえる「オルタナティブスペース」。沖縄で長年取り組んできたスペース運営やその活動記録をもとに「hubとなる場所」を考えていく。

受講生感想

「体感を伴った共有」ができるのであれば、それをアウトプットとして享受できる方々が発起し参画し、創作等が続いていくことで、地域への還元(当事者性の共有)がかなうことを学んだ。

Chapter.7 2023年10月14日(土)14:00~17:00

講師 アートディレクター/グラフィックデザイナー
内間安彦 Uchima Yasuhiko

タイトル 「デザインとはどういった術なのか」

デザインの考え方や手法を活用して、課題の解決策を見いだす「デザイン思考」。しかし、現実にそんな特効薬のような事例は減多にない。実践と結びつけ、“今”と“これから”に必要な「デザイン」を学ぶ。

受講生感想

オノマトペを視覚化するというワークから、改めてイメージや思考を絵や形に物象化するのは難しいということを知った。デザインはアイデアを具現化する技術が重要だと感じた。奇しくも、アートの語源がアルス=技術であること、日本語で言えば「芸術」の「術」という意味を体験することが出来た。

Chapter.8 2023年10月28日(土)14:00~17:00

講師 アートディレクター/沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー
八巻真哉 Yamaki Shinya

タイトル 「アートプロジェクトのディレクションと運営」

アーティストや地域の人々と協働し、京都府域のまち等を舞台にアートプロジェクトを展開してきたALTERNATIVE KYOTOの取り組みを例に、持続可能なアートプロジェクトのこれからの在り方や、運営体制の仕組みづくりについて考える。

受講生感想

アートは「自由なものを見方や考え方を促し「気づき」を与え、社会課題を解決するのではなく、問題「提起」を行う機能があることを改めて知った“ワクワクした感覚”を大事にしたい。講師の知見や実践してきたアプローチ方法は、どの講師の言葉よりも労苦とアレンジしたプロセスが感じられたので、類する実践者として参考にできるものは最大限に活用したい。

Chapter.9 2023年11月11日(土)14:00~17:00

講師 株式会社らいおん建築事務所代表取締役
嶋田洋平 Shimada Yohei

タイトル 「報告会及び講評会」

「リノベーションまちづくり」をテーマに、自分たちのまちの「使われていない空間の新しい使い方」を考え、「ほしい暮らしを自分たちでつくる」ために事業性も重視した考え方を学ぶ。後半は、講座・ワークショップの受講を経る中でさまざまな学びを得ながら計画してきた、受講生自身が今後取り組んでいきたいアーツプロジェクトプランの報告会を、講師による講評を交えて実施。

受講生感想

実際の経験に基づくお金や運営やそれらを続ける難しさといった話が中心で、とてもリアルで面白かったです。一番難しいのは「継続」なので、今後何か企画を立ち上げるときには継続性についてももしっかり考えながら取り組んでいきたいと思いました。



○ その他の取り組み

沖縄県文化芸術名鑑

沖縄県内を中心に活動するアーティストやクリエイターの紹介、文化団体、文化施設等の情報を掲載していきます。今年度は、美術や琉球芸能、工芸など幅広い分野で活躍する方々へのインタビューを行いました。令和5年度には、魅力あふれる沖縄県の文化芸術に関する人や場所を紹介し、より多くの皆様に知っていただくことを目的にデータベース化したウェブページです。



Okinawa Arts Meeting

日時 2023年11月23日(木・祝)14:00~17:00
会場 Art Oasis(那覇市壺屋1-1-1 2F)

魅力あふれる沖縄県内を中心に活動するアーティストやクリエイターの紹介、文化団体、文化施設等の情報を掲載していくウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」の周知広報を兼ね、Okinawa Arts Meetingを開催しました。

第1部／アーティストトーク

「風景を奏でる、沖縄と表象の媒体としてのアーティスト」
カズ・オオシロ(アーティスト)

第2部／ディスカッション

「沖縄の文化・芸術の価値を伝え、繋ぐ」
池間北斗(琉球箏曲家)、山本憲卓(陶芸家)、石川竜一(写真家)
進行／八巻真哉(沖縄アーツカウンシル プログラムオフィサー)



○ 沖縄文化芸術の創造発信支援事業 令和5(2023)年度の取り組み

()は継続事業数

公募による採択件数・補助金額等		応募総数	採択数	採択率	補助確定額
令和4年度	団体	23	9	39.1%	32,110,000円
	スタートアップ	6	4	66.7%	3,509,000円
	個人事業主	23	9	39.1%	7,593,000円
令和5年度	団体	26	9(6)	34.6%	29,961,000円(交付予定額)
	スタートアップ	5	5(1)	100%	4,264,000円(交付予定額)
	個人事業主	14	7	50%	6,199,000円(交付予定額)

※令和5年度においては、1団体、都合により事業中止

ぶんかとおほじょきんそうだん会

沖縄県内で文化芸術に関わる活動をしている方を対象に、プログラムオフィサーによる相談機会の提供に取り組みました。毎月20日の定期開催の他、不定期に宮古島や石垣島でも開催しました。

令和5年度相談件数

155件

(令和6年2月末現在)

第1回 先島文化ミーティング～宮古 / 八重山の文化芸術のこれから“先”を考える

主催：(公財)沖縄県文化振興会(文化活動支援助成事業、沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演、沖縄文化芸術の創造発信支援事業)

宮古、八重山各地で文化芸術に携わる方々をゲストに迎え、先島エリアの現状や課題を見つめ、今後の可能性について考える「先島文化ミーティング」を開催しました。沖縄県文化振興会が取り組む助成事業「かりゆし芸能公演」「文化活動支援助成」の説明も行い、これから〈先〉を見据えた文化振興について、ゲストや来場者とともに議論し、「沖縄」の文化芸術を望む新しい視点につなげていくことを試みました。

〈宮古島会議〉宮古文化を育む場をどうつくる？

日時 2023年12月16日(土) 18:30～21:00
会場 未来創造センター研修室(宮古島市平良字東仲宗根807番地)
登壇者 松谷初美(一般社団法人宮古島文化協会 事務局長)、
松原洋輔(PALI GALLERY)
司会 上地里佳(沖縄アーツカウンシル チーフプログラムオフィサー)



〈石垣島会議〉八重山の文化の価値とはなにか？

日時 2023年12月17日(日) 15:00～17:30
会場 石垣市役所1階コミュニティルーム(石垣市字真栄里672番地)
登壇者 大田静男、國岡恭子(サバニ舟大工)、山根頼子(八重山資料研究会)
司会 小川恵祐(沖縄アーツカウンシル プログラムオフィサー)



平成29年度～令和4年度までの補助事業で実施した

文化芸術活動数

1,737件

(令和4年/204件)

文化芸術活動
享受者数

334,704件

(令和4年/26,297件)

異分野連携活動数

890件

(令和4年/67件)

異分野連携事業者数

699件

(令和4年/137件)

※ただし、数万人が来場する大規模イベントのブース参加のうち、実数が抽出できないものは割愛

OKINAWA ARTS COUNCIL

2023 > 2024

令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 支援事業事例集

発行日 令和6(2024)年3月

発行者 沖縄県

編集・執筆 沖縄アーツカウンシル(公益財団法人沖縄県文化振興会)

上地里佳 / 真栄城桃子 / 八巻真哉 / 具志幸大 / 小川恵祐 /

橋口知佳子 / 喜舎場梓 / 池畑陽介 / 奥間恵

デザイン 久高美保



沖縄県



公益財団法人沖縄県文化振興会 沖縄アーツカウンシル

〒901-0152

沖縄県那覇市字小祿1831-1 沖縄産業支援センター6階 605号室

TEL 098-987-0926 FAX 098-987-0928

<https://www.okicul-pr.jp/oac/>



Web



Facebook



Instagram

